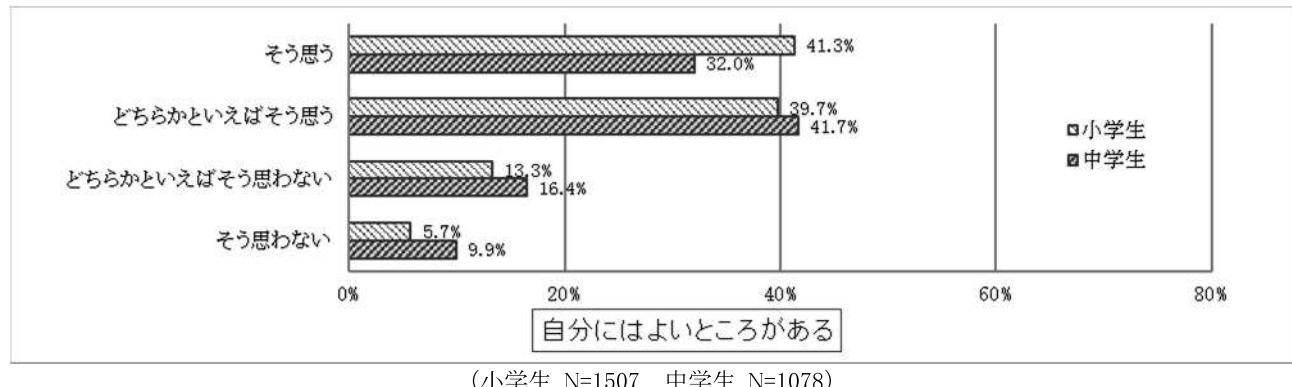


9. 自己肯定感

問 26①[小学生は問 24①] 自分にはよいところがある

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計は、小学生で 81.0%、中学生で 73.7% です。子どもたちは自分を肯定的に評価していることがわかります。

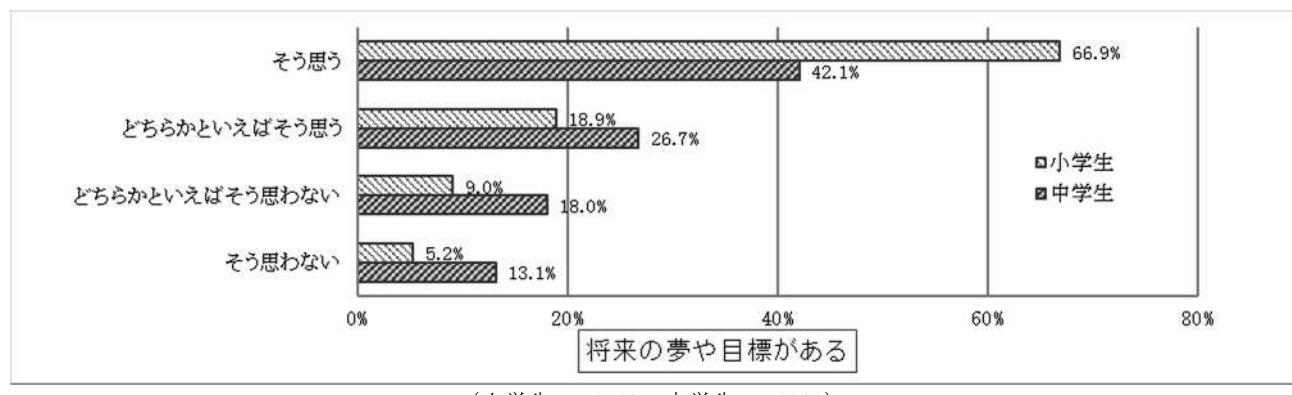
小学生、中学生ともに相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。



問 26②[小学生は問 24②] 自分には将来の夢や目標がある

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計は、小学生で 85.8%、中学生で 68.8% です。将来の夢や目標について、それらをもっている割合が小学生で高いのに対して、中学生では低くなっています。両者の間に開きが見られます。

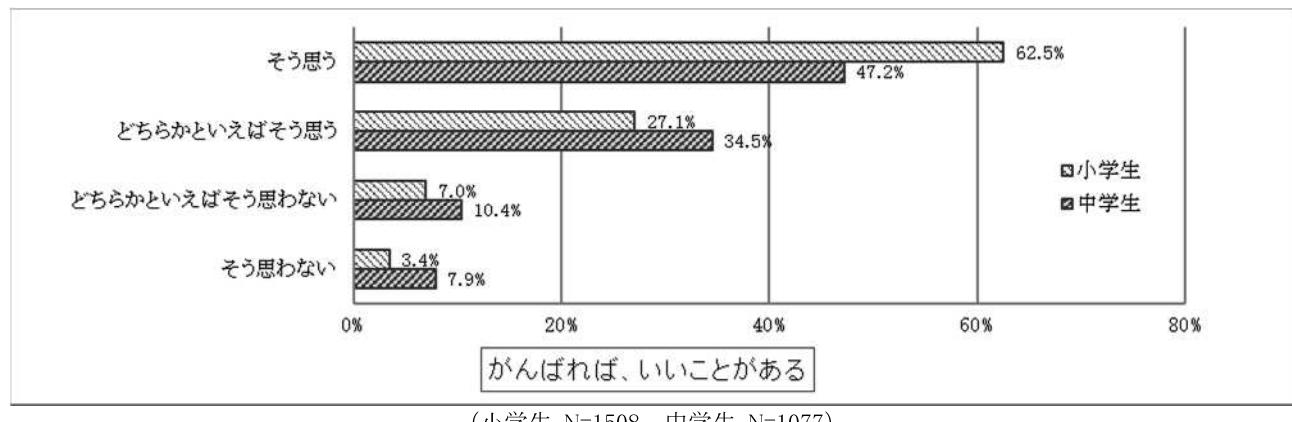
小学生、中学生ともに相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。



問 26③[小学生は問 24③] がんばれば、いいことがある

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計は、小学生で 89.6%、中学生で 81.7% です。小学生でおよそ 9 割、中学生では 8 割を超えており、努力の意義を認めていることがわかります。

小学生、中学生ともに相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。

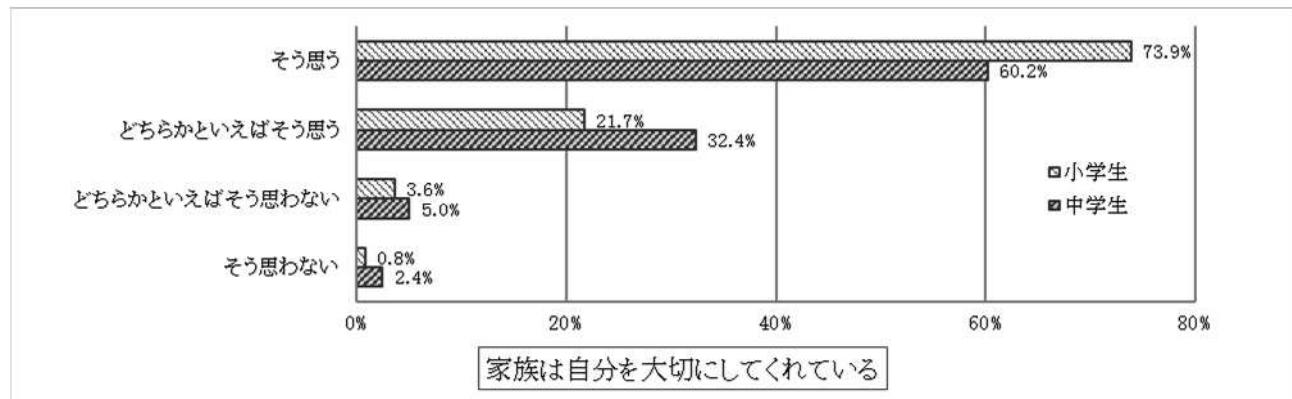


(小学生 N=1508 中学生 N=1077)

問 26④[小学生は問 24④] 家族は自分を大切にしてくれている

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計は、小学生で 95.6%、中学生で 92.6% です。小学生、中学生ともに 9 割を超えており、ほとんどの子どもが家族から大切にされていると感じていることがわかります。

小学生、中学生ともに相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。

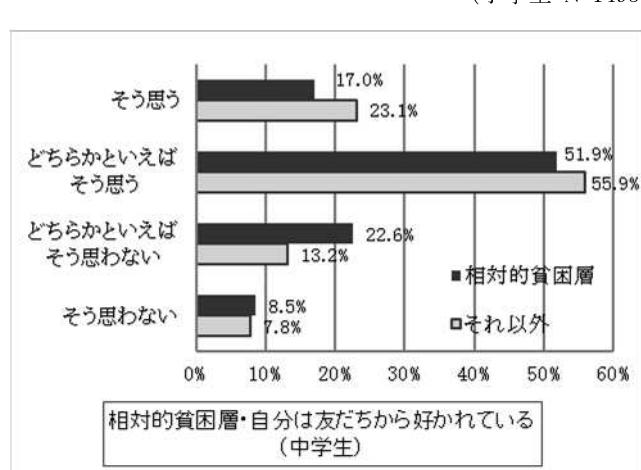
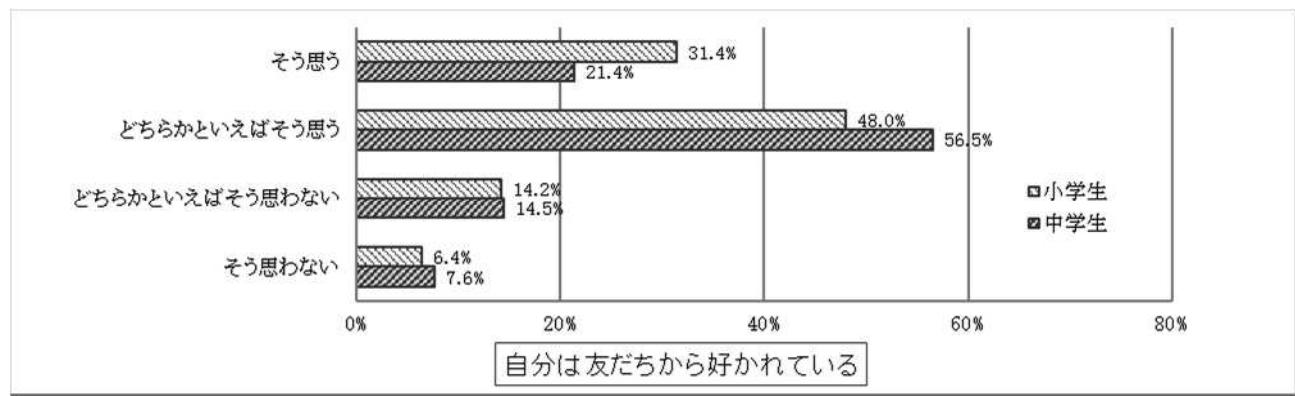


(小学生 N=1503 中学生 N=1078)

問26⑤[小学生は問24⑤] 自分は友だちから好かれている

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計は、小学生で79.4%、中学生で77.9%です。小学生、中学生ともに友だちから好かれていると感じている子どもは8割近くに上っています。問26の他の項目の回答と比べると、小学生と中学生の間の差が小さいことが注目されます。

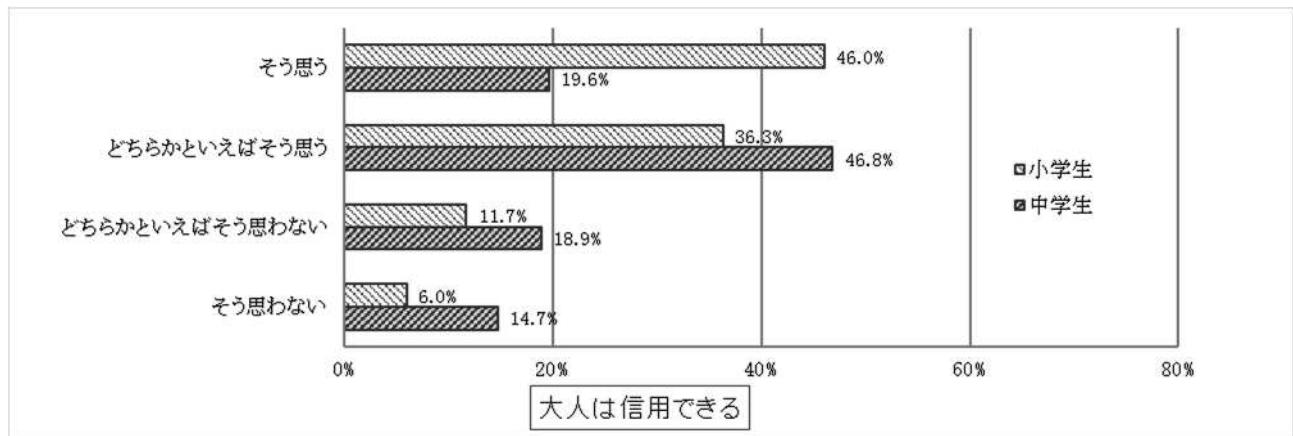
相対的貧困層と「それ以外」の間では、中学生で統計的な差が見られます。相対的貧困層では、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」という回答の合計が3割を超え、「それ以外」よりも10ポイント高くなっています。



問26⑥[小学生は問24⑥] 大人は信用できる

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」という回答の合計は、小学生で82.3%、中学生で66.4%です。小学生では信用できるという回答が8割を超えていましたが、中学生では7割に満たないことがわかります。

小学生、中学生ともに相対的貧困層と「それ以外」の間に統計的な差は見られません。



(小学生 N=1504 中学生 N=1076)

自己肯定感<小括>

「自分にはよいところがある」「自分には将来の夢や目標がある」「がんばれば、いいことがある」「家族は自分を大切してくれている」「自分は友だちから好かれている」という5つの質問は、いずれも自己肯定感に関わるものですが、どの質問でも、肯定的な回答（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が、小学生では8~9割、中学生では7~9割を占めており、否定的な回答（「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」の合計）を大きく上回っています。肯定的な回答の割合はどの質問でも、中学生が小学生よりも低いですが、特に「自分にはよいところがある」と「自分には将来の夢や目標がある」の2つでは、中学生の否定的な回答が前者でおよそ4人に1人、後者ではおよそ3人に1人の割合になっていることが注目されます。「自分は友だちから好かれている」については、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」という回答が、相対的貧困層の中学生において高くなっています。

「大人は信用できる」という質問への回答でも、肯定的な回答が小学生で8割を超え、中学生で7割弱あり、中学生でやや低くなっています。